

平成 11 年 10 月 28 日

区広報課と立教大学生との共同制作番組

「ストップ『ポイ』ポイ捨て絶滅！」

11 月より地元ケーブルテレビで放映

豊島区広報課は、開かれた区政 PR の一方策として、立教大学生の企画・参加による区広報番組「ストップ『ポイ』ポイ捨て絶滅！」を制作、来月 11 月 1 日よりケーブルテレビの区広報番組で放映する。

今回の番組制作は、区政 PR に若い世代の柔軟な発想・アイデアの活用を図ろうと、地元大学に呼びかけ実現となった最初の試みである。立教大学は、池袋駅を挟み区役所に近く、また、区の呼びかけに対し、立教大学の中で「タバコのポイ捨て絶滅運動」（吸殻拾い）を実践しているグループがいるとの情報を得、番組制作を通じて、「ポイ捨て」という共通の問題を行政と学生がともに考えようと、番組のテーマが決まった。

番組制作は今年 7 月にスタートし、学生たちとの話し合い、取材、撮影と 3 ヶ月余りに渡って進められた。キャンパス内でのインタビューから、地元商店会の取組みや、行政、警察、池袋駅へと取材を重ねる中で、結局は一人一人のモラルにどう訴えるか、条例・罰則で取り締まる以前に何ができるかということが大きな問題として浮かびあがってきた。そして最後に、学生たちから次の三つの提案が出された。

「街をいつもきれいにしておく」「ポイ捨てはダメだと自覚しよう」「自ら進んでゴミを拾おう」

番組制作を通じ、ポイ捨て絶滅の本質的な困難さを目のあたりにした彼らの提案は、自分たちにできること、誰もができることに集約されていった。しかし、学生たちが感じた困難さは現実のものであり、「山や川やきれいな自然の中で捨てるのに感じる罪悪感を街の中で感じないのは、街が中途半端に汚れているからだ。徹底的にきれいにすれば捨てられなくなるのではないか。」「ゴミを拾うことは、簡単なきっかけで参加できる、自らが拾うことで一人一人のモラルに訴えていきたい」という彼らの言葉は本音だ。「ポイ捨て」は、街に暮らし、街を訪れる全ての人の問題である。番組を見て、彼らの言葉に多くの人が耳を傾けてくれることに期待したい。

区では、現在、地元ケーブルテレビ（としまテレビ：豊島ケーブルネットワーク株式会社）のコミュニティチャンネルで、テレビ広報番組「こちら豊島区役所です！」を毎日放映している（30 分番組：1 日 4 回放映）。同番組には、豊島区の様々な姿を特集して伝える『としま区スペシャル』という 13 分のコーナーがあり、今回の立教大学生との共同制作もこのコーナーで放映される。放映期間：11 月 1 日より 15 日までの半月間。

また、区は平成 9 年 10 月に「ポイ捨て条例」を施行、今年 2 周年を迎えた。明日 29 日には、2 周年を記念し、区全域でポイ捨て防止を訴える「さわやかキャンペーン」を実施する。

詳細：広報課 映像広報主査